



大漁を願う小木・御船神社の祭礼「とも旗祭り」が5月2、3日に小木港で開催されました。高さ20メートルの巨大な旗9基を伝馬船に立て、漁船にえい航されて港内を巡りました。2日は里山里海交流を続けている小木中と柳田中の生徒が東町町内会など3町内の伝馬船に分乗して海の祭りを体験し、交流を深めました。

3日朝は九十九湾の蓬莱島の周囲を優雅に運航し、観光客を楽しませました。午後からの本祭りでは例年、神輿を載せた御座船を先頭に9基のとも旗が一行に連なり運航されますが、今年はいにくの強風のため4基に減らされました。強風に負けず、神輿を担ぐ氏子らの威勢良いかけ声と、太鼓の音が響きました。



3基のとも旗に乗船し、祭り体験を通じて交流を深める小木中、柳田中の生徒たち



小木とも旗祭り

大きな神旗に大漁祈る

古式ゆかしく豊作願う

献穀田御田植式



早乙女による田植え後、田んぼに御幣を挿す、献穀者の松井英芳さん



神職、松井英芳さん夫妻、丹羽耕作長とともに記念撮影に臨む早乙女役の児童

宮中で行われる新嘗祭^{にいなめさい}で用いられる米を献上する「献穀田」の御田植式が5月23日、上長尾の松井英芳さんの水田で行われました。町に献穀田が設けられるのは10年ぶりです。地元柳田小児童と地区出身者の子ども、合わせて6人が早乙女姿で田んぼに入り、白装束姿の丹羽栄二郎耕作長から苗を受け取って丁寧に植え付けました。谷本正憲県知事、持木町長、宮下正博県議会議長、山口彦衛県議、鍛冶谷議長、山崎一盛JAおおぞら組合長が順に祝辞を述べ、無事に収穫を迎えられるようお願いしました。新嘗祭は11月23日に行われ、米5合が献上されます。